

■七条院(藤原殖子) 宮人。立后なき院号の初例。国母権勢で多くの荘園領有し、時流に翻弄されるも生涯を全うした。

しちじょういん

藤原基衡没・1157 = 生。藤原隆家流信隆の娘。母は藤原通基の娘休子。藤原殖子。

平治の乱・1159 = 2歳：

源頼政内昇殿1166 = 9歳：

清盛太政大臣1167 = 10歳：

法然浄土宗始1175 = 18歳：

高倉上皇の後宮に入って典侍となり、

治承のクーデタ 1179 = 22歳： 第2皇子守貞(後高倉院)、

源氏一斉蜂起1180 = 23歳： 第4皇子尊成(後鳥羽天皇)両親王を生んだ。

平清盛没・1181 = 24歳： 高倉上皇の早世に続いて

後鳥羽天皇・1183 = 26歳： *後白河上皇の計らいで、皇子尊成が即位して後鳥羽天皇の治世を迎え、元典侍殖子は天皇后儀となり、七条修理大夫と呼ばれ正三位で卒していた父信隆に左大臣従一位が贈られ、母もまた正一位を贈られた。

1184 = 27歳：

平氏滅亡・1185 = 28歳： 姻戚の平氏滅亡で悲運に沈む間もなく、

奥州藤原滅亡1189 = 32歳：

源頼朝上洛・1190 = 33歳： *従三位、准三宮、続いて院号宣下をうけ、七条院と称した。七条院司の補任、院の殿上始及び年給・封戸等は慣行通り行われ、こうして殖子は八条院の先例にならい、臣下として立后なき院号の初例をひらいた。殖子は図らずも天皇后儀、太上天皇母としての女院時代を送る。

鎌倉幕府始・1192 = 35歳：

1193 = 36歳：

ようやく殿上の慣例に馴れてくると積極的に公儀の場に臨み謙譲の心に乏しいとの非難を浴びる。

1198 = 41歳：

源頼朝没・1199 = 42歳： *後鳥羽の譲位は、政界や宮裡に様々な波紋を引起し、七条院内は一時火の消えたように影を落したが、

1202 = 45歳：

執権政治始・1203 = 44歳：

後鳥羽上皇の厚い享養をうけ、その陰を頼んで、宮殿造営・御願寺建立・熊野・石清水・日吉・稻荷の参詣参籠に勢威を示す。

1211 = 54歳：

北条頼権確立1213 = 56歳：

愚管抄・1220 = 63歳：

承久の乱・1221 = 64歳： *七条院の三条殿が放火で焼亡し、北条義時追討の兵乱(承久の乱)がはじまるが、幕府に敗れた後鳥羽・順徳兩上皇は遠島に送られ、弟信清の娘西御方(坊門局)も後鳥羽院に従って隠岐に渡った。皇統は後鳥羽の兄後高倉院流に移るが、その生母・後堀河天皇の祖母として、地位は保たれる。しかし戦後の京師の治安は悪化し、七条院は群盗の襲撃をうけるも、居を移さなかったが、

運慶没・1223 = 66歳： 後高倉院に先立たれると、病いがちになり、

北条政子没・1225 = 68歳：

1228 = 71歳： 遺領を処分して、没した。

八条院と並ぶ財力いわれる莫大な七条院領の大半は後鳥羽が後白河上皇から伝領したものと平家没官領等で、幕府に没収されたが、子の後高倉院に返され、その没後に戻ったという。